

会 議 録

(6 - 1)

会議の名称		令和6年度第2回春日部市下水道事業審議会					
開催日時		令和6年12月24日(火)	<table border="1"> <tr> <td>開 会</td> <td>午前10時00分</td> </tr> <tr> <td>閉 会</td> <td>午後12時10分</td> </tr> </table>	開 会	午前10時00分	閉 会	午後12時10分
開 会	午前10時00分						
閉 会	午後12時10分						
開催場所		春日部市役所本庁舎 2階 会議室203					
議長(会長等)氏名		作山 康					
出席者	委員氏名	(出席人数：8人)					
		作山 康、下田正樹、田口真喜夫、梅村武尚、中島邦彦、藤田英典、吉田 剛、酒巻由紀子					
	説明者その他	(出席人数：3人)					
		上下水道部次長（兼）施設管理課長：古谷悦夫					
		経営総務課長：田口俊彦					
	事務局	(出席人数：9人)					
		上下水道部長：青木 保					
		上下水道部次長（兼）施設管理課長：古谷悦夫					
		経営総務課長：田口俊彦					
経営総務課下水道庶務経理担当主幹：高橋裕之							
施設管理課下水道施設担当主幹：松井克憲							
経営総務課下水道庶務経理担当主査：湯浅明子							
経営総務課下水道庶務経理担当主任：本舘未由希							
日本会計コンサルティング（株）：南澤 淳							
日本会計コンサルティング（株）：鈴木直紀							
次第及び公開・一部公開・非公開の区分		[議案第1号] 春日部市下水道事業経営戦略について（公開）					
一部公開・非公開の場合はその理由		☐ 要綱第3条第1号該当： ☐ 要綱第3条第2号該当： ☐ 要綱第3条第3号該当： ☐ 要綱第3条第4号該当：					
配布資料		①次第 ②座席表 ③資料1：春日部市下水道事業審議会第2回審議会 ④資料2：経費回収率の向上に向けたロードマップ					
会議録の作成方法		☐ 録音テープ等を使用した全文記録 ☒ 録音テープ等を使用した要点記録 ☐ 要点記録					
会議録署名の指定		議長の指名により、梅村武尚 委員に決定する。					

発 言 者	発言内容 ・ 決定事項
事務局	1 開会
	・ 審議会の成立報告
	出席委員 8 名、春日部市下水道事業審議会条例第 6 条第 2 項の規定による定足数に達しており、当審議会が成立していることを報告。
会長	2 会長あいさつ
事務局	・ 今回の会議より経営戦略策定業務を受託している日本会計コンサルティング株式会社が説明者として同席することを報告。
	《春日部市下水道事業審議会条例第 5 条第 2 項の規定により、会長が議長となる。》
議長	3 議事録署名人の選出
	議事録の署名人に梅村委員を指名。
議長	4 会議の公開
	本日の議題については、非公開事項が含まれていないため、審議事項については全て公開と決定。傍聴人なしの報告。
事務局	5 議事
	議案第 1 号 春日部市下水道事業経営戦略について（継続審議）
	— 資料に基づき説明 —

発 言 者	発言内容 ・ 決定事項
議長	・ 説明に対する総括 審議会は、計画の決定機関ではありませんが、客観的な議論は必要なので物価高騰等、諸般の情勢を鑑みながらも冷静な意見をいただきたいと思います。 また本日使用した資料の数値は会計上の数値を用いていますが、前提となる条件などについて実態に合わせる必要もあるかと思います。
	・ 質疑
委員	資料 1 の 5 ページですが、平成 29 年度に策定した経営戦略と実績を比較したデータ等がありますか。
事務局	実際に比較した資料はありませんが、事務局で試算したところ本資料 38、30 ページの収支予測値については使用料収入で約 2 億円、資本的支出は約 1.5 億円減少しています。
委員	過去に策定した計画を分析して策定すべきだと思います。
委員	下水道管渠の実際の耐久年数はどれくらいでしょうか。
事務局	耐久年数に関して、市としてデータは持ち合わせていませんが、市保有の管渠やマンホール等には現状、耐用年数経過前に亀裂やひび割れ等が発生しております。
委員	会計上は耐用年数で計算するのは良いと思いますが、料金改定の予測をする場合は耐久年数を考慮し計算したほうが良いと思いました。
委員	資料 1 の 11 ページですが、総処理水量と有収水量の比較で差が出ており、当該差分は雨水の流入との説明ですが、逆に雨水が流出するということはないのですか。
事務局	中川流域維持管理負担金の関係で市から報告している流量のデータを見ると、雨天時は水量が多くなっています。
委員	補足しますと、管渠内に水圧がかかっていないので流出は考えにくいです。台風などで冠水する場合は、侵入水が多くなると考えられています。
委員	令和 1 年度と 5 年度を比較して、5 年度の有収率が約 7 % も上がっているのはなぜですか。
事務局	有収率の大きな要因は雨水の流入となります。令和 5 年度は年間通して降水量が少なかったため、結果的に流入量が少なくなったのだと思われます。
委員	資料 1 の 17 ページですが、春日部市より使用料の安い吉川市や川口市の経費回収率が春日部市よりも高いのはなぜですか。

発 言 者	発言内容 ・ 決定事項
事務局	経費回収率とは費用を収入で割り返したものになるので、使用料が高ければ経費回収率が高くなるわけではありません。かかる費用が高い場合は経費回収率は下がるので、単純に使用料での比較はできません。 吉川市や川口市は経費回収率が100%を超えているため、経営という視点で見ると良好であると言えますが、数値が高い理由として、吉川市は駅前を中心に人口が密集しているため、経費が少なく済んでいることや、さいたま市はそもそも市域全体の人口が多いことなどが挙げられます。
委員	資料1の22ページですが、春日部市の基準外繰入金が他の中川流域関連市町と比較して高く、また基準内繰入金が低いのはなぜですか。
事務局	現金収支の差額を繰入金として計上をしていますが、その繰入金の中で基準内と基準外に分類されます。基準内に該当するものとして分流式に要する経費や雨水処理の負担金などがありますが、春日部市においては他市町と比べ分流式に要する経費が少ないので基準内繰入金が低くなっていると分析しております。
委員	資料1の36ページですが、経営戦略の算出根拠について、費用の物価上昇分を年1%増加で試算していますが費用の項目ごとに上昇率を設定しないのでしょうか。また、職員給与費と利息の算定方法についても再度検討いただきたいと思います。 資料1の41ページですが、基本的な考え方として、値上げは最終手段であってまずは経営努力をしコスト削減を図ったうえで、回収しきれない分を料金改定で賄うのが筋だと思います。またロードマップで5年に一度収支実績の確認を行うとありますが、個人的には半年もしくは年に一度の分析を行ったうえで計画を微調整しながら進めて行っていきたいと思っています。
委員	先ほど管渠の耐用年数の話が出ましたが、中川流域の特性上、平地で流速が遅いため、単に老朽化や地震によるクラックだけでなく、硫化水素の発生によるコンクリートの白墨化なども想定されるので、一般的な耐久年数を当てはめるのは非常に難しいと感じます。そういうことも踏まえ次回の説明をしてほしいです。また先ほど話に出た収益的支出の年1%の物価上昇率については粗いと感じております。特に修繕費に関しては非常に高くなるので、再検討してもらったほうが良いと思いますし、それだけ費用がかかるということを示したうえで使用料の値上げの必要性を市の利用者に訴求したほうが良いのではないかと思います。
委員	資料1の8ページの50年超延長と老朽化延長とはなんでしょうか。

議 事 の 経 過	
発 言 者	発言内容 ・ 決定事項
事務局	５０年超延長とはその年に５０年を迎える管路の長さを示しており、老朽化延長とはその年までの５０年超延長分の累計を示しております。グラフの表記方法に関しては次回までに再検討いたします。
委員	国土交通省から各自治体に上下水道耐震化計画を策定する旨の通知があったと思いますが、その計画は今回の経営戦略に盛り込まれているのでしょうか。
事務局	春日部市も現在、上下水道耐震化計画の作成中です。しかし作成した整備計画等に対する補助金等の詳細は現時点で公表されていないため本日配布した資料には盛り込まれておりません。詳細が公表され次第、経営戦略の数値も変更してまいります。
委員	ロードマップの３ページに社会資本整備総合交付金の重点配分対象にならない要件について記載がありますが、春日部市の該当状況を教えてください。
事務局	春日部市は満たしていない要件が使用料単価のみのため、交付金の重点配分対象になる見込みです。
委員	今後、修繕費等のコストは非常に多くかかってくることが想定されるので、コストを縮減していく中でも使用料改定は避けられないと思います。ロードマップでは令和９年度に改定となっていますが、前倒しで料金を改定していったほうが将来の市民の方々の負担が減っていくと考えられるので、検討していただきたいと思います。
議長	・ 質疑に対する総括 現状の計画だと、実態に即していない箇所がいくつか見受けられます。例えば、最新の人口推計によると、経営戦略の記載より約７，０００人減少する見通しなので使用料収入が下がります。中川流域の加盟団体は総じて使用料が安くなっていますが、国は２０㎡あたり３，０００円というところを目安としているので、参考資料に中川流域以外の県内自治体の平均などを記載したほうが良いと思います。また経営戦略の計画自体が甘めにできている印象があるので、現状が厳しいということを数値で示していく必要があると思いますので改めて精査してもらえればと思います。
議長	今後審議を深めていく必要があるため、本案件は継続審議とさせていただきますが、ご異議はございませんか。

議 事 の 経 過	
発 言 者	発言内容 ・ 決定事項
委員 議長	— 異議なし —
	「異議なし」と認め、議案第 1 号は継続審議とし、本日の議事を終了する。
事務局	4 その他
	・ 次回会議日程について
事務局	5 閉会
議事の顚末・概要を記載し、その相違なきことを証するためここに署名する。 令和7年1月27日 署名者の職・氏名 委員 梅村 武尚（原書は自署）	